

JOMA通信



Japan Overseas Missions Association 海外宣教連絡協力会 公報

No.94号

みことばをもって、新しい歩みを始める

日本ウィクリフ聖書翻訳協会 総主事（宣教師）
2025年度JOMA 会長

松丸 嘉也

本年5月9日に開かれたJOMA総会を経て、前会長の佐味湖幸先生からのバトンを受け取りました。JOMAは各加盟団体の持ち回りで役員の奉仕をすることになっていますので、このようにJOMA全体を見渡しなが奉仕できる機会が与えられていることを感謝しています。他の役員の先生方、事務局長の吉永先生、事務主事の大間兄と共に2027年春までの約2年間務めさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

今回の「新しい役員人事」は、この数年をかけて行われてきたJOMA設立50周年の一連の記念行事（“Zoom In Mission”や宣教地訪問ツアー等を含む）を「記念誌」の発行をもって祝福のうちに終えたことを受けて、というタイミング・状況にあります。50年以上にわたって受け継がれてきた世界全体に目を向けてのJOMAの歩みが大きな節目を過ぎ、次の50年に向けての、いわば「新しい歩み」を始めたことを意味します。また一方で、前号のJOMA通信（No. 93）の特集であり、今年の総会に先立って持たれたJOMAセミナーのテーマでもあった、昨年9月の『ローザンヌ国際会議（L4、ソウル・仁川2024）』を受けて、私たちが（JOMAとして、あるいは各加盟団体として）改めて来たるべき時代の新しい「世界大の宣教協力へ」とのチャレンジを共に受け止めています。このことは、私たちにとって大きな区切りに続く「新しい歩み」であることも意味しているのではないのでしょうか？（そもそも歩むということは、いつも新しく、道を切り開く、という側面が多分にあるものですが…。）

個人的な事を言えば、奇しくも今、私にとっても日本ウィクリフとしても、「新しい歩み」のスタートにあります。この7月、ウィクリフから新しい宣教師がパプアニューギニア（PNG）に派遣されましたが、私自身もこの宣教師のメンバーサポートのためにPNGに来ました。いくつもの「新しい歩み」が重なり合っている状況を目の当たりにしています。（そして、PNGでこの原稿を書いています。）

ここで、宣教の御業を始められる直前のイエス様から教えられること（マタイの福音書4章1-11節）について思いを巡らしたいと思います。

1 それからイエスは、悪魔の試みを受けるために、御霊に導かれて荒野に上って行かれた。（新改訳2017）

イエス様は、ご自身の宣教の働きを始める最初の段階で荒野に上って行かれました。この部分から少なくとも次の3つのことが読み取れるように思います。

- ① イエス様は明確な目的を持って、しかしご自分の考えるままではなく、
- ② 「御霊に（よって）導かれて」荒野に上って行かれましたが、
- ③ 元々の表現から、荒野に



ペルーの日系人教会（日秘福音教会）に置いてある『新約聖書（文語訳）』
1927年発行の日本語聖書（松丸撮影）

「入って（“eis”, into）」と読むことができます。

イエス様は、御霊に導かれて、自らの意思で、試みと誘惑に満ちた私たちの現実の（罪の）世界に入ってきました。荒野とは本当に厳しく寂しい環境で、自分と向き合い、神様との関係を改めて吟味する場所でもあることも覚えます。

2 そして四十日四十夜、断食をし、その後で空腹を覚えられた。

3 すると、試みる者が近づいて来て言った。「あなたが神の子なら、これらの石がパンになるように命じなさい。」（同）

私達の歩みにおいて、特に新しい歩みを始める時にも（そのような時こそ）、躓きや誘惑や試練に遭う事が往々にしてある、と示しているように思われます。それは祈りを含めた十分な準備があったとしても、ということを示唆しているように思われます。

4 イエスは答えられた。「『人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つのことばで生きる』と書いてある。」（同）

悪魔の試み（誘惑）に対するイエス様の武器は、聖書のみことばで、「（聖書には）と書いてある」というものでした。その後も繰り返される悪魔の試みに対してもそれぞれに「（聖書には）と書いてある」と、神のことばによって試みに打ち勝ち、悪魔を退けられました。

新しい役員会で新しい歩みを始めたJOMAもまた、激動する世界情勢にあって、あるいは加盟団体それぞれの特徴やミニストリー故に、あるいは全く予期しない出来事によって、時には様々な試みがあることでしょう。私たちはイエス様が示されたように、みことばによって一致し、みことばに教えられ、みことばに信頼し、みことばをもって新しい歩みを進んで行きましょう。

新入会団体紹介

『モンゴルキッズの家』

モンゴルの首都ウランバートルにある「モンゴルキッズの家」は、家庭の事情で親と暮らせない子ども達や、ストリートでの生活を余儀なくされた子ども達に、安全な居場所と未来への希望を提供する支援施設です。モンゴルは1990年代以降、社会主義から市場経済への急激な移行により、多くの家庭が崩壊し、貧困や家庭内暴力、アルコール依存などの問題を背景に、数多くの子ども達がマンホールに住んだり、保護を必要とする状況となりました。現在も目覚ましい経済発展の中で広がる格差社会は、このような状況の子ども達を新たに生み出しています。政府の施設もありますが、追いつけていない状況です。

「モンゴルキッズの家」では、子ども達の多様なニーズに対応するため、三つの部門を設け支援を行っています。第一は「幼稚部」として、就学前の子ども達を対象に24時間体制での生活の基本を身につけながら心身の健やかな成長を促す場。第二は「学童保育」として、小・中学生となった子ども達が、放課後や週末も安全に過ごせるよう、食事・学習支援と同時に、個性や才能を伸ばす指導を提供しています。そして第三は、「ホームレス状態にある子どもや若者へのデイシェルター」として、ストリートにいる青少年に対して大人と社会への信頼の回復のためにカウンセリング、学び、リハビリと将来的な自立支援を行っています。



子ども達はただ保護されるだけでなく、それぞれの年齢と背景に応じて愛情深く育てられ、生活力と自立心を養っていきます。毎日の生活の中で、規則正しい習慣、礼儀、協調性が育まれ、教育を受ける喜びと、将来に向けて個性と才能を伸ばしていきます。心のケアにも力を入れており、トラウマや喪失体験を抱える子ども達が、時間をかけて自尊心と信頼を取り戻せるよう、心理的・霊的な支援も行っています。



現地では、モンゴル人スタッフによって活動が進められ、日本や韓国などからの支援者とボランティアは、共に協力し合いながら、子ども達の生活と教育の訓練を支えています。生活の場は常に家族のような雰囲気、子ども達は互いに兄弟姉妹のような絆を築き、安心して成長していきます。

また、「モンゴルキッズの家」は単なる保護施設にとどまらず、子ども達が社会に巣立つ日までを見据えた包括的な支援を提供しています。高校や大学への進学を目指し、シングルマザーには職業訓練や就職の機会を整えることで、自立した人生を歩む土台を築いています。卒園生の中には、教師や看護師、福祉関係者、警察官など、社会に貢献する道を夢見る若者たちが育っています。



この働きは、日本国内外の教会、個人、団体の祈りと支援によって支えられています。献金の提供、ボランティア派遣に加え、祈りや励ましの言葉が大きな力となっています。「モンゴルキッズの家」は、神の愛と人々のまごころによって守られてきた、子ども達にとって“もう一つの家族”です。ここで育った子ども達が、将来また他の誰かを助ける存在へと成長していくことを、私たちは心から願っています。



<https://www.mongoliakidshome.com/>

◆ 日本ウィクリフ聖書翻訳協会

- * パプアニューギニアに派遣された石川礼宣教師(聖書活用・識字教育)のために。7月から9月下旬までの現地適応訓練が守られ、その後の働きが用いられるように。
- * 派遣準備中の宣教師に具体的な導きがあるように。
- * 9月21-23日に開催されるウィクリフキャンプ2025(場所:松原湖バイブルキャンプ場)が、ウィクリフの働きや異文化での奉仕に関心ある方々への祝福となるように。

◆ 日本同盟基督教団

- * 「教会形成・アジア21、そして世界へ」のもと宣教が進められるように。
- * 新たな宣教師が起こされるように。
- * すべての民に福音が届けられるために教団全体が用いられるように。

◆ 日本イエス・キリスト教団

- * 現在、台湾に1組2名、東京(在日外国人宣教)に1組2名の宣教師を派遣しています。それぞれの宣教の働きが前進していきますように。
- * 新しい宣教師が起こされますように。

◆ 日本バプテスト教会連合

- * タイ・チェンマイに派遣している、福間庸平宣教師はスポーツを通した伝道を行っています。働きが祝福されますように。
- * 海外友好協力教会として宣教協力関係にある、ネパール・バクタプルのチャウタリコミュニティ教会を通しての伝道、教会開拓が前進しますように。

◆ 日本ホーリネス教団

- * 伊藤めぐみ宣教師の働きと健康が祝福されるように。
- * 新しい宣教師候補が起こされるように。
- * ホーリネス教団内から短期宣教の働きをする若者が起こされるように。
- * 日本宣教のためにブラジルから来ている牧師達との宣教協力が祝福されるように。

◆ ハンガーゼロ

- * 小西の”プロジェクト・コーディネーター”としての働きと霊肉共の健康のため。
- * コンゴ民主共和国東部での反政府勢力の活動が収まり平和が戻るように。
- * 武装グループの攻撃から支援コミュニティの人々の命が守られるように。
- * 近藤の南アフリカからの無事帰国への感謝と、今後のリハビリ・回復のために。

◆ 南米宣教会

- * ブラジル宣教の重荷を持ってくださる方が起こされますように。
- * ジョセフィーナ学校の体育館の屋根修理や消火設備の設置工事のための必要が満たされ、順調に進むように。
- * ミッションアマゾナスの地域宣教が広がり、定着するように。

◆ モンゴルキッズの家

- * 現地の約70名の子ども達が、神様の守りのうちに良き人生の土台を築くことができるように。
- * ホームレスユースの為のモンゴルキッズの家2号の施設と働きが充実し、将来に希望をもてる若者を育てられるように。
- * 現地の働きが将来の独立に向けて、方策を見つけることができるように。
- * この働きをご支援くださる方の上に、豊かな祝福があるように。

◆ 日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド 教団

- * フィリピンに遣わされている関本英樹・美奈子宣教師、山城良美宣教師の働きが祝福されるように。
- * 台湾に遣わされている丸山陽子宣教師(原住民伝道)の働きが祝福されますように。
- * 新たな宣教師候補者が起こされてきますように。

※ 祈禱課題欄は、毎回同じ団体の順番に掲載することになってしまうことを避けるために、順不同にて原稿到着順に掲載するようにいたしました。

※ JOMA加盟20団体のうち、12団体の祈禱課題は前号に記載しています。

世界宣教関連のお知らせ

JOMA加盟団体 世界宣教関連 イベント等スケジュールピックアップ

加盟団体関連

- * OMF：国際総裁が訪日予定。11月に北海道と東京でカンファレンス開催予定。10月には教職者対象の宣教地訪問ツアーを計画している。
- * OM日本：ドゥロス・ホープ号が、2028年に日本に寄港予定。
- * アンテオケ：2027年に50周年記念会。世界宣教のための、サバイバルキャンプ予定。
- * イムマヌエル：毎年11月世界宣教月間。世界宣教聖日を定め、教団全教会でDVDを見て祈る。年2回、オンラインで宣教師と繋ぎ、教団教職者/信徒で世界宣教祈祷会を行っている。
- * 在欧日本人宣教会：8月に全欧から200人前後が出席する「ヨーロッパキリスト者の集い」を予定。
- * 東京フリー・メソジスト教団：世界宣教祈祷会を年3回開催。9/15には坂西師を迎えて開催予定。11/1-3、福井の武生教会にて、日本フリーと合同で協力伝道を行う予定。
- * 日本ウィクリフ：9/21-23ウィクリフキャンプ開催予定。
- * 日本バプテスト教会連合：年1回オンラインで宣教師と繋ぎ、世界宣教祈祷会を行っている。世界宣教部主催で、ネパール教会との合同ユースフェローシップを行っている。

JEA宣教委員会 異文化宣教ネットワーク関連

- * 日本伝道会議の間の年にBJ（ブレス・ジャパン）と協力してカンファレンスを開催（次項参照）。

ディアスポラ宣教関連

- * BJカンファレンス開催準備：今年度はJEA宣教委員会の宣教ファールムと共催し、日本人教会からの参加も歓迎する。9/22（月）-23（火・祝）、OCCにて開催予定。

高山 嘉津子 アンテオケ事務局長のためにお祈り下さい

高山姉は、5月22日（木）、事務所に倒れ、緊急搬送されました。「脳幹出血」の診断で、手術が困難とのことで、現在も意識不明です。刺激に反応があるため脳死ではなく、自宅近くの病院に転院して継続して治療中で、祈りが必要な状態が続いています。今後も継続してお祈り下さい。

JOMA事務局の働きのためにも続けてお祈りをお願いします！

JOMAでは吉永輝次事務局長、大間哲事務局主事が日本の教会における世界宣教の啓発と促進のために精力的に多くの労をとってくださっています。しかし、現状ではJOMAの会費からでは十分な報酬をお渡しすることができていません。

働きがさらに充実・前進するためにお祈りいただき、お献げいただけると幸いです。

2025年度JOMA会長 松丸嘉也

※下記口座に、通信欄に「事務局長指定」「主事指定」とご記入の上お振込みをお願いいたします。

◇郵便振替

口座記号番号：00160-7-106631 口座名義：海外宣教連絡協力会

◇他行からの場合

銀行名：ゆうちょ銀行 店名：〇一九（ゼロイチキュウ） 店番：019

預金種目：当座預金（振替口座）

口座番号：106631 記号：00160 番号：106631

口座名義：海外宣教連絡協力会（カイク イセンキョウレンラクキョウリョクカイ）

◆事務局より◆

JOMAは、50周年記念事業期間を総会で総括。今年度より松丸嘉也新会長を迎えて、あらたな目標に向けて進み始めました。JOMAの働きとは何か、名称はどうあるべきかと言ったことも総会で話し合われ、今後も継続した検討課題になりました。そのためもあり、当JOMA通信では、新会長挨拶、新入会のモンゴルキッズの家の活動紹介に加えて、これからの関連団体や世界宣教関連の主なイベント等のスケジュールも掲載いたしました。（大間）

JOMA通信
No.94号
2025年 7月 31日発行

発行所：JOMA（海外宣教連絡協力会）住所：〒177-0034 練馬区富士見台2-9-9 インマヌエル富士見台教会内
メール：office@joma.jp（電話はありません） 発行者：松丸嘉也 監修者：伊達尚 編集者：大間哲
ホームページ：http://joma.jp/ 郵便振替（口座名義：海外宣教連絡協力会 口座番号：00160-7-106631）

